

大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）事後評価結果

大学名	一橋大学
整理番号	A①-3
事業名	アジア・ビジネスリーダー・プログラムⅡ（アドバンスト）

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A⁻	一部でやや不十分な点はあるものの、概ね事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現されたと判断された。
コメント 本事業は一橋大学大学院国際企業戦略研究科、北京大学光華管理学院、ソウル大学校経営専門大学院の3校が将来の日本・中国・韓国の経済界のビジネスリーダーを育成するため、アジア・ビジネスリーダー・プログラムとしてダブルディグリー、学期間交換留学、短期集中の3プログラムを中心に、教育におけるグローバルな国際連携の推進を目指し実施された事業である。3大学とも、それぞれ国際認証を受けており、カリキュラムのチューニング、単位の実質化、相互の単位認定、成績管理等質保証の取組を着実に構築している。 事業展開では、半年間または1年間で派遣元先両校の学位を取るダブルディグリー・プログラム、1学期で複数科目の単位をとる学期間交換留学プログラム、夏に開催する短期集中プログラムが実施された。特に、各都市を4日ずつ訪問する短期集中プログラムは人気が高く、交流学生数の目標値も概ね達成している。共通言語を英語とし、かつ同じMBAプログラムであることから、共通の知識を基盤として、より具体的な国際感覚を現地で身につけるといった対応は適切である。また、各校で企業におけるインターンシップの機会を提供している点は評価できる。今後の継続性についても、国際プログラムとして新たにシンガポールを加えた枠組みを構想する等、アジアでの国際プログラムとして更なる展開が期待される。 一方で、ダブルディグリー・プログラムの参加者は非常に少なく、学期間交換留学における交流学生数も目標値を達成できていない。ダブルディグリー・プログラムの日本人学生については参加を促しているものの、2年間のコースに入学する者がそもそも少ないといった面があり、構造的な課題を認識し、改善に向けて取り組んでいくことが望まれる。また、コロナ禍でオンライン教育に力を入れたにも関わらず参加者がほとんどなく、国際交流に活かなかった原因を様々な側面から分析し、得られた結果に基づいて、より積極的な改善措置を講じることが必要である。事業が担当部局に留まっていることもあり、大学他部門への国際化の波及効果が見られないことについても対応が望まれる。 最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的な事業展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。	